

Canon

SPEEDLITE

EL-100



詳細ガイド

はじめに

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（8～9ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

カメラの使用説明書もあわせてお読みください

ご使用になる前に、本書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

*** 本書では、EOSデジタルカメラとの組み合わせを前提に説明しています。**

EOSフィルムカメラとの組み合わせについて

E-TTL II/E-TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラと組み合わせたときは、自動調光での撮影を行うことができます。なお、TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラと組み合わせたときは、自動調光での撮影はできません。

章目次

	はじめに	2
1	撮影前の準備と簡単な撮影 ストロボ撮影の準備と基本的なストロボ撮影	11
2	ストロボの機能 ストロボの機能を設定する方法	21
3	メニュー画面から設定するストロボの機能 カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法	27
4	光通信ワイヤレスストロボ撮影 光通信によるワイヤレスストロボ撮影	41
5	資料 よくある質問	55

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

(p.**) : 参照ページを示しています。

 : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

 : 補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- ストロボをカメラに取り付けた状態で、ともに電源が入っていることを前提に説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、ストロボとカメラに使われている絵文字を使用しています。
- ストロボのカスタム機能、カメラのメニュー機能／カスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 発光回数などの各種数値は、単3形アルカリ乾電池を2本使用し、当社試験基準で測定した値です。

目次

はじめに	2
章目次	3
本使用説明書の表記について	4
機能目次	7
安全上のご注意	8
各部の名称	10

1 撮影前の準備と簡単な撮影 11

電池を入れる	12
カメラに取り付ける／取り外す	14
照射角の切り換え	15
電源を入れる	16
ETTL : 全自動ストロボ撮影	18
撮影モード別E-TTL II/E-TTL自動調光撮影	19

2 ストロボの機能 21

バウンス	22
モデリング発光	23
FEL: FEロック	24
その他の機能	25

3 メニュー画面から設定するストロボの機能 27

メニュー画面からの設定方法	28
---------------	----

▶▶ 後幕シンクロ/  ハイスピードシンクロ	31
M : マニュアル発光	33
MULTI : マルチ発光	35
CSP: 連写優先モード	37
 調光補正	38
C.Fn: ストロボカスタム機能設定	39

4 光通信ワイヤレスストロボ撮影 41

✓ 光通信ワイヤレスストロボ撮影	42
ETTL : 全自動ワイヤレスストロボ撮影	44
A:B : 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影	49
M : 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影	53

5 資料 55

温度上昇による発光制限について	56
故障かな?と思ったら	57
索 引	61

機能目次

電源

- 電池 → p.12
- 発光間隔/回数 → p.11
- 電源ON/OFF → p.16
- 充電完了 → p.16
- オートパワーオフ → p.25

操作

- 取り付け/取り外し → p.14

通常撮影

- E-TTL自動調光 → p.18
- 撮影モード別自動調光 → p.19
- マニュアル発光 → p.33
- ストロボメータード
マニュアル → p.34
- TTL自動調光 → p.2

機能

- 調光補正 → p.38
- FEロック → p.24
- ハイスピードシンクロ → p.31
- 後幕シンクロ → p.31
- モデリング発光 → p.23
- AF補助光 → p.25
- 照射角 → p.15
- 設定初期化 → p.39
- ストロボ機能設定 → p.21
- 発光制限 → p.56
- バウンス撮影 → p.22
- 連写優先モード → p.37

光通信ワイヤレスストロボ撮影

- E-TTL自動調光 → p.44

カスタマイズ

- カスタム機能 (C.Fn) → p.40
- 一括解除 → p.39

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



警告

死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 指定外の電源は使わない。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - ・指定外の製品で使わない。
 - ・熱したり、火中投入しない。
 - ・指定外の製品で充電しない。
 - ・端子に他の金属や金属製のピンやゴミに触れさせない。
 - ・液漏れしたものは使わない。
 - ・廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。

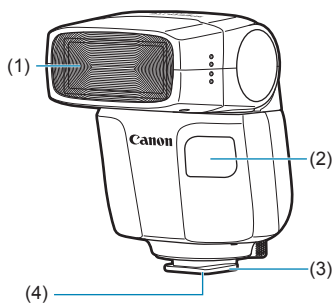
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

- 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
- 熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

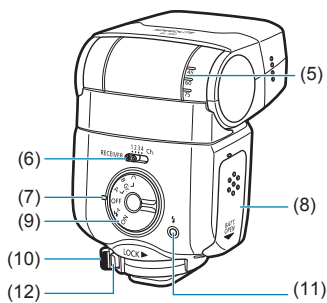
 注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。
- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。
- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
- 製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。

各部の名称

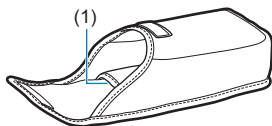


- (1) 発光部
- (2) 光通信ワイヤレス受光部
- (3) 取り付け脚
- (4) 接点

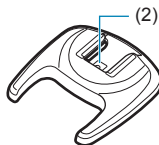


- (7) 電源ランプ
- (8) 電池室ふた
- (9) モードダイヤル
- (10) 取り付け脚ロックレバー
- (11) 充電ランプ
- (12) ロック解除ボタン

付属アクセサリ



ストロボケース



ミニスタンド

- (1) ミニスタンド収納部
- (2) 取り付け部

1

撮影前の準備と簡単な撮影

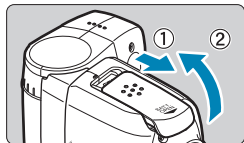
この章では、ストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

🔊 連続発光に関するご注意

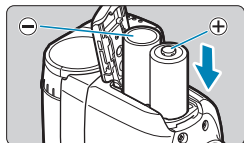
- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続フル発光は30回までにしてください。記載した回数の連続フル発光を行ったときは、40分以上休止してください。
- 上記回数の連続フル発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限中のときは、発光間隔が強制的に約45秒になります。そのときは40分以上休止してください。
- 詳しい内容については、56ページ『温度上昇による発光制限について』を参照してください。

電池を入れる

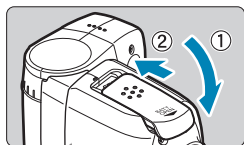
電源には単3形電池2本を使用します。



1 ふたを開ける



2 電池を入れる



3 ふたを閉める

 注意**●「単3形リチウム電池」は使用しないでください。**

一部の「単3形リチウム電池」を使用した際に、まれに電池が非常に高温になることがあります。お客様の安全のため、「単3形リチウム電池」の使用はお控えください。

●長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合は、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。



アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、電池の種類により接触不良を起こすことがあります。



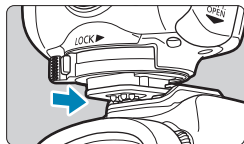
● 電池は2本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は2本同時に行ってください。

● 単3形ニッケル水素電池も使用できます。

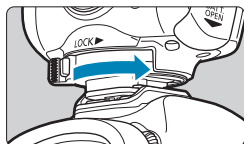
● 発光間隔と発光回数については、『補足情報』（別紙）を参照してください。

カメラに取り付ける／取り外す

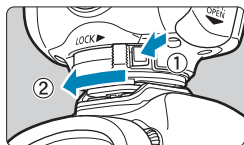
必ずストロボの電源を切ってから行ってください。



1 取り付ける



2 固定する

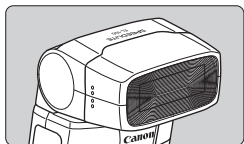


3 取り外す

照射角の切り換え

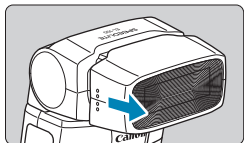
使用するレンズの焦点距離に合わせて、発光部を操作して照射角を切り換えてください。

照射角より広角のレンズで撮影すると、写真の周辺部が暗くなることがあります。



通常状態

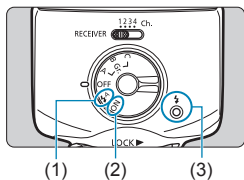
- 最大照射角は、RF/EF24mm (EF-S/EF-M15mm) のレンズに対応しています。



引き出し状態

- RF/EF50mm以上 (EF-S/EF-M30mm以上) のレンズに対応しています。

電源を入れる

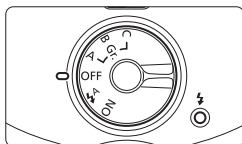


1 モードダイヤルを〈**ON**〉(1) または〈**OFF**〉(2) に合わせる

2 充電を確認する

- 充電が完了すると充電ランプ(3)が赤色に点灯します。
- 充電ランプが点滅状態でも撮影(クイック発光)することができます。発光量は通常発光の1/2～1/6になります。

モードダイヤル



● 〈ON〉

撮影時に常時発光します。

● 〈**ON**〉

ストロボの自動発光に対応したカメラでは、撮影モードや撮影状況から、ストロボ光が必要な状況に応じて、自動的に発光します。

また、EOS Rの【**Av**】または【**P**】モードでは、カメラの電源スイッチの入/切に連動して、ストロボの電源も入/切します。

● 〈OFF〉

ストロボの電源が切れます。

● 〈**Gr. A / B / C**〉

光通信ワイヤレスストロボ撮影のレシーバーとして使用するときを設定します。詳しくは第4章『光通信ワイヤレスストロボ撮影』を参照してください。



- ストロボの自動発光に対応したカメラで、モードダイヤルを〈〉にしたときは、撮影条件や電池の状態によっては充電が完了せず、撮影が行われないことがあります。
- 次の条件のときは、クイック発光できません。
 - E-TTL II/E-TTL非対応カメラ
 - 光通信ワイヤレスストロボ撮影
 - マルチ発光
 - 発光量1/4～1/128以外でのマニュアル発光



- モードダイヤルを〈〉にしたときは、発光部を正面に向けて撮影することをおすすめします。また、使用するレンズの画角に合わせて照射角を切り換えてください (p.15)
- ストロボの自動発光に対応していないカメラで、モードダイヤルを〈〉にしたときは、撮影時に常時発光します。

ETTL: 全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉（プログラムAE）、または「全自動」に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。

なお、ストロボのモードダイヤルが〈〉のときは、カメラによっては自動的に [E-TTL-II] に設定されます。



1 発光モードを [E-TTL-II] に設定する

- カメラのメニューの【ストロボ機能設定】または【外部ストロボ機能設定】の画面から発光モードの項目を選びます（p.28）。



- [E-TTL II] を選びます。

2 照射角を切り換える

- 使用するレンズに応じて照射角を切り換えます（p.15）。

3 ピントを合わせて撮影する

- ファインダーまたはモニター（ライブビュー時）に〈〉が点灯していることを確認します。



- 撮影画像が暗い（露出アンダーの）ときは、被写体に近づくか、ISO感度を上げて再度撮影します。
- 「全自動」は〈〉〈〉〈〉の撮影モードのことです。

撮影モード別E-TTL II/E-TTL自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈**Tv**〉(シャッター優先AE)、〈**Av**〉(絞り優先AE)、〈**Fv**〉(フレキシブルAE)、〈**M**〉(マニュアル露出)に設定すると、撮影モードに応じたE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

Tv	任意のシャッタースピードが設定できます。設定したシャッタースピードに対し、標準露出となる絞り数値が自動設定されます。 ● 絞り数値が点滅するときは、絞り数値が点灯するようにシャッタースピードを変更してください。
Av	任意の絞り数値が設定できます。設定した絞り数値に対し、標準露出となるシャッタースピードが自動設定されます。 ● シャッタースピードが点滅するときは、点灯に変わるまで絞り数値を変更してください。
Fv	任意のシャッタースピードまたは絞り数値が設定できます。 ● 任意のシャッタースピードの設定で絞り数値が点滅するときは、絞り数値が点灯するようにシャッタースピードを変更してください。 ● 任意の絞り数値の設定でシャッタースピードが点滅するときは、シャッタースピードが点灯するように絞り数値を変更してください。
M	任意のシャッタースピードと絞り数値が設定できます。 主被写体はストロボ光で標準露出になりますが、背景の露出は、設定したシャッタースピードと絞り数値によって変わります。



〈**DEP**〉〈**A-DEP**〉で撮影したときは、〈**P**〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別ストロボ同調シャッタースピードと絞り数値

	シャッタースピード	絞り数値
P	自動設定 (1/X秒～)	自動設定
Tv	手動設定 (1/X秒～)	自動設定
Av	自動設定 (1/X秒～)	手動設定
Fv	手動設定/自動設定 (1/X秒～)	自動設定/手動設定
M	手動設定 (1/X秒～)	手動設定

- 『1/X秒』は、使用するカメラのストロボ同調最高シャッタースピードです。また、低速側のストロボ同調シャッタースピードはカメラにより異なります。

[illegible]

2

ストロボの機能

この章では、このストロボで使用可能な機能について説明しています。

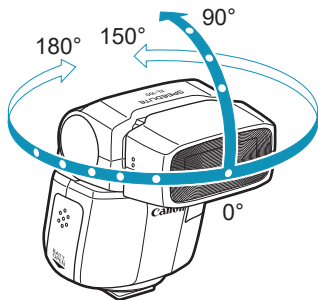
カメラのメニュー画面で設定する機能については、27ページを参照してください。

バウンス

ストロボの発光部を天井や壁に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体による影が緩和されて、より自然な感じで写すことができます。この撮影方法を「バウンス撮影」といいます。

発光部の向きを決める

- 図のように発光部の向きを変えることができます。なお、発光部を引き出した状態で撮影することをおすすめします。



- ストロボ光をバウンスさせる天井や壁までの距離が離れていると、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。
- 撮影した画像が暗いときは、より小さな絞り数値を設定（絞りを開く）するか、ISO感度を上げて再度撮影してください。
- ストロボ光をバウンスさせる天井や壁は、無地の白に近い色をした反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けたり、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。

モデリング発光

絞り込みボタンのあるカメラでは、絞り込みボタンを押すと、ストロボが約1秒間連続的に発光します。この機能を「モデリング発光」といいます。ストロボ光による被写体の影の出かたを確認するときに有効です。



- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は30回までにしてください。それ以上モデリング発光を行ったときは、40分以上休止してください。
- 上記回数のモデリング発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光間隔が強制的に約45秒になります。そのときは40分以上休止してください。
- ライブビュー撮影時は、カメラ側操作によるモデリング発光はできません。
- EOS MシリーズおよびEOS Rと組み合わせたときは、モデリング発光はできません。

FEL: FEロック

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

1 被写体にピントを合わせる

2 ストロボ露出を固定する

- 発光モードを [E-TTL II] に設定します (p.18)。
- 被写体をファインダーまたはモニターの中央に置いて、カメラのFEロック用のボタンを押します。
FEロック用のボタンはカメラにより異なります。カメラの使用説明書を参照してください。
- ➔ ストロボがプリ発光し、露出が固定されます。
- ➔ ファインダーまたはモニターに「**FEL**」が約0.5秒間表示されます。EOS MシリーズおよびEOS Rは、画面中央に調光範囲を示す円が表示されます（機種によっては〈*〉も表示されます）。
- FEロック用のボタンを押すたびにプリ発光し、そのときに必要な発光量が記憶されます。



- FEロックを行ったときに適切な露出が得られないときは、ファインダーまたはモニターに〈〉が点滅します。被写体に近づく、ISO感度を上げる、または絞りを開いて、再度FEロックを行ってください。
- ファインダーまたはモニターの視野に対して被写体が小さいときは、FEロックの効果が得られないことがあります。



カメラによっては、FEロック用のボタンを押すたびに、プリ発光とFEロックの解除が交互に行われます。

その他の機能

色温度情報通信

ストロボ発光時の色温度情報をEOSデジタルカメラに伝えることで、ストロボ光の色温度に応じてホワイトバランスを調整する機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉〈AWBw〉〈〉のときに自動的に働きます。対応カメラについては、カメラ使用説明書を参照してください。

AF補助光

暗い場所でピント合わせを行ったときや、被写体のコントラストが低いときなど、AFでピントが合いにくいときは、AFによるピント合わせを補助するため、ストロボが自動的に間欠発光します。



AF補助光でピントが合いにくいときは、中央または中央寄りのAFフレームを選択してください。



- 光通信ワイヤレスストロボ撮影のときは、AF補助光は発光されません。
- カメラのメニュー画面からAF補助光の投光を禁止することができます。詳しくはカメラの使用説明書を参照してください。

オートパワーオフ機能

- 約90秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押しすると電源が入ります。
- レシーバー設定時（p.42）は、オートパワーオフまでの時間が約60分になります。



- オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます（C.Fn-01／p.40）。
- レシーバーストロボのオートパワーオフまでの時間を変更することができます（C.Fn-10／p.40）。

3

メニュー画面から設定する ストロボの機能

この章では、カメラのメニュー画面から設定するストロボの機能について説明しています。



この章の操作は、カメラの撮影モードが〈Fv/P/Tv/Av/M/Bulb(B)〉のときに可能です。

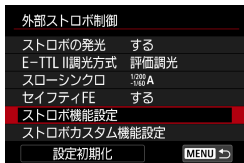
メニュー画面からの設定方法

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

メニューの設定方法については、カメラの使用説明書を参照してください。



- 1 [カメラアイコン：ストロボ制御] または [カメラアイコン：外部ストロボ制御] を選ぶ



- 2 [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] を選ぶ

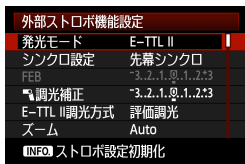
- 3 項目を設定する

- カメラにより設定画面や表示される項目が異なります。

表示例1



表示例2



ストロボ機能設定画面で設定できる機能

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、**【する】**に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用するときは、**【しない】**に設定します。

● E-TTL II調光方式

【評価調光】に設定すると、標準的なストロボ露出が得られます。**【平均調光】**に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。

● スローシンクロ

絞り優先AEモード、またはプログラムAEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AEモードでストロボ同調シャッタースピードを設定することができます。

● セイフティFE

ISOオートの設定で、日中のストロボ撮影や、近距離ストロボ撮影を行ったときに、調光（露出）オーバーになるときは、カメラが自動的にISO感度を下げて、適正露出で撮影することができます。

● 発光モード

【E-TTL II】（p.18）、**【マニュアル発光】**（p.33）、**【マルチ発光】**（p.35）から選ぶことができます。また、カメラによっては**【連写優先モード】**（p.37）を選ぶことができます。

● シンクロ設定（p.31）

ストロボの発光タイミング／発光方式を**【先幕シンクロ】****【後幕シンクロ】****【ハイスピードシンクロ】**から選ぶことができます。

● 調光補正（p.38）

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

- **ワイヤレス機能** (p.41)

光通信ワイヤレスストロボ撮影の設定を行うことができます。

- **ストロボカスタム機能設定** (p.39)

ストロボのカスタム機能を設定することができます。

- **設定初期化** (p.39)

【ストロボ機能設定初期化】または【外部ストロボ設定初期化】を選ぶと、ストロボの設定内容を初期状態に戻すことができます。

 カメラによっては表示されない機能があります。また、ストロボのモードダイヤルが〈A〉のときに設定できない機能があります。

-  ● 【ストロボの発光】【E-TTL II調光方式】は、28ページの手順2または手順3で表示されます（カメラにより異なります）。
- 使用するカメラや発光モードなどにより、設定できる内容が異なります。

▶▶ 後幕シンクロ/⚡ ハイスピードシンクロ ■



低速シャッターで後幕シンクロ機能を使用すると、車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。



先幕シンクロ



ハイスピードシンクロ機能を使用すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、〈Av〉モードで被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。



通常発光



1 [シンクロ設定] の画面を表示する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面 (p.39) からシンクロ設定の項目を選びます。

2 項目を選ぶ



- ワイヤレスストロボ撮影時は、後幕シンクロはできません。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッタースピードが高速になるほどガイドナンバーが低下します。

M: マニュアル発光

フル発光（1/1）から1/128発光まで、発光量を任意に設定することができます。

1 発光モードを設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面（p.28）から発光モードの項目を選びます。



- [マニュアル発光] を選びます。

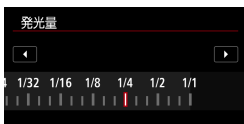


2 発光量を設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面から発光量の項目を選びます。



- [◀] [▶] を操作して設定します。



- 市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。
- カメラの撮影モードをくAv>またはくM>に設定することをおすすめします。
- マニュアル発光時のガイドナンバーについては、『補足情報』（別紙）を参照してください。

ストロボメータードマニュアル撮影

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近いときに有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードを〈M〉にします。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内中央のスポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈M-Fn〉または〈※〉〈FEL〉ボタンを押す

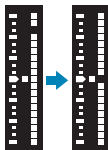
- ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。

5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。

6 撮影する

- 標準反射板を取り除いて撮影します。



 EOS-1Dシリーズ以外のカメラでは、ストロボメータードマニュアル撮影はできません。

MULTI: マルチ発光



低速シャッターでマルチ発光機能を使用すると、連続した動きを1枚の写真に撮影することができます。

1 発光モードを設定する

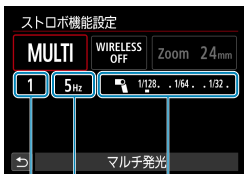
- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面 (p.28) から発光モードの項目を選びます。



- [マルチ発光] を選びます。

2 発光回数、発光周波数、発光量を設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面から項目を選んで設定します。



(1) (2) (3)

- (1) 発光回数
- (2) 発光周波数
- (3) 発光量

シャッタースピードの求め方

発光回数÷発光周波数＝シャッタースピード

例えば、発光回数10（回）、発光周波数5（Hz）で撮影するときは、シャッタースピードを2秒以上に設定します。



- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、マルチ発光による繰り返し撮影は15回までにしてください。15回撮影したときは、10分以上休止してください。
- 15回を超えて繰り返し撮影を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは40分以上休止してください。



- マルチ発光を行うときは、反射率の高い被写体と暗い背景の組み合わせが最も効果的です。
- 三脚と、リモートスイッチまたはリモートコントローラー（別売）の使用をおすすめします。
- 1/1 発光、1/2 発光は設定できません。
- カメラの撮影モードが〈Bulb(B)〉（バルブ撮影）でもマルチ発光を行うことができます。
- 最大連続発光回数については、『補足情報』（別紙）を参照してください。
- 発光回数の表示が「---」のときは、シャッターが閉じるか、充電が切れるまで連続発光します。

CSP: 連写優先モード

カメラによっては、[CSP]（連写優先モード）でのストロボ撮影を行うことができます。連写優先モードは、通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボの電池の消耗を抑えたいときなどに効果的です。詳しくは連写優先モードに対応したカメラの使用説明書を参照してください。



発光モードを設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面（p.28）から発光モードの項目を選びます。
- [連写優先モード] を選びます。



絞り数値が大きいときや、被写体までの距離が遠いときは、連続発光や電池の消耗を抑えるなどの効果が得られにくくなります。

調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。



1 【調光補正】の画面を表示する

- 【ストロボ機能設定】または【外部ストロボ機能設定】の画面（p.28）から【調光補正】を選びます。



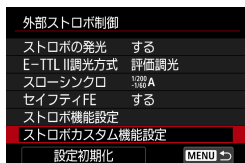
2 補正量を設定する

- 【◀】【▶】を操作して設定します。

 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。

C.Fn: ストロボカスタム機能設定

カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定することができます。なお、表示される内容は使用するカメラによって異なります。

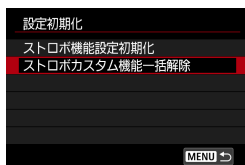


- 1 [ストロボカスタム機能設定] または [外部ストロボカスタム機能設定] を選ぶ



- 2 カスタム機能を選ぶ

- 機能を設定します。



- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、[外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] の画面で [ストロボカスタム機能一括解除] または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選びます。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-01: オートパワーオフ (p.25)

- 0 : ON (入)
- 1 : OFF (切)

C.Fn-10: レシーバーのオートパワーオフ時間

光通信ワイヤレスストロボ撮影時に、レシーバーのオートパワーオフ機能が作動するまでの時間を変更することができます。

- 0 : 60分
- 1 : 10分

C.Fn-11: レシーバーのオートパワーオフ解除

光通信ワイヤレスストロボ撮影時にセンドーの電源オンに連動して、オートパワーオフ状態になったレシーバーの電源を入れることができます。

オートパワーオフ状態のレシーバーが、この機能を受け付ける時間を変更することができます。

- 0 : 8時間以内
- 1 : 1時間以内

4

光通信 ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「光通信」ワイヤレスセンドー／レシーバー機能を使用したストロボ撮影方法について説明しています。
光通信ワイヤレスストロボ撮影に必要なアクセサリーについては、『補足情報』（別紙）を参照してください。



- この章の操作は、カメラの撮影モードが〈Fv/P/Tv/Av/M/Bulb(B)〉のときに可能です。
- センダー側のモードダイヤルは〈ON〉にしてください (p.16)。



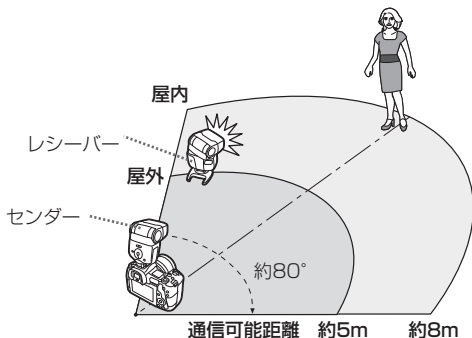
- センダーストロボとレシーバーストロボにEL-100を使って説明しています。
- カメラに取り付けたEL-100を「センドー」、ワイヤレス制御されるEL-100を「レシーバー」と呼んでいます。

光通信ワイヤレスストロボ撮影

光通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライトを使用して、ワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。

配置と作動範囲

● レシーバーを1灯使った自動調光撮影 (p.44)



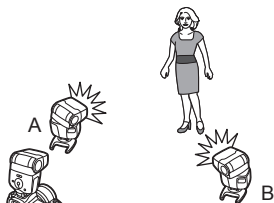
- 通信の妨げになるため、センドーとレシーバーの間に障害物を置かないでください。
- 通信可能距離は使用するセンドーにより異なります。センドー機能を備えた機器の使用説明書を参照してください。
- 撮影を行う前にテスト撮影を行ってください。

- レシーバーのワイヤレス受信部をセンドーに向けた状態で配置してください。
- レシーバーに設定したEL-100を、光通信ワイヤレスセンドー機能を備えたEL-100以外の他の機器でワイヤレス制御することもできます。そのときのセンドー機能の設定方法については、その機器の使用説明書を参照してください。
- 付属のミニスタンド (p.10) を使用してレシーバーを配置します。

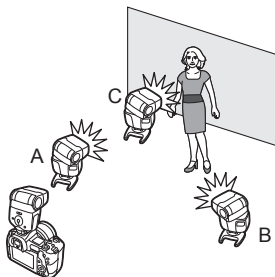
ワイヤレス多灯撮影

レシーバーを2グループ、または3グループに分けて、光量比（発光量の割合）を変えながら、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。また、すべてのストロボを同じ光量で発光させて、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます（p.47）。

● レシーバーをグループに分けた自動調光撮影



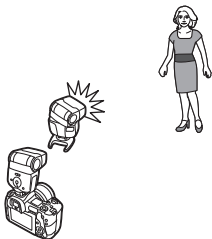
2 (A, B) グループ (p.49)



3 (A, B, C) グループ (p.50)

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影

レシーバーを1灯使った自動調光撮影



センドーとレシーバーにEL-100を使った、基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

センドー側の設定



1 光通信ワイヤレス機能を設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面 (p.28) からワイヤレス機能の項目を選びます。



- [ワイヤレス: 光通信] を選びます。



2 発光モード、光通信チャンネル、センダー発光を設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面から項目を選んで設定します。

- (1) 発光モード
- (2) 光通信チャンネル
- (3) センダー発光



- (1) で、発光モードを [E-TTL II] に設定します。



- (2) で、センドーの光通信チャンネルを設定します。



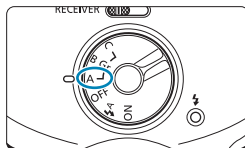
- (3) で、[センドー発光] を [する] に設定します。

レシーバー側の設定



3 光通信チャンネルを設定する

- 光通信チャンネル切り換えスイッチの番号を、センドーで設定した光通信チャンネルに合わせます。
- センドーとレシーバーの光通信チャンネルが異なると発光しません。



4 発光グループを設定する

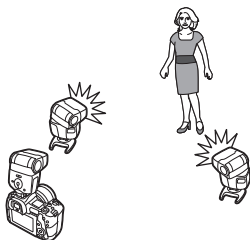
- モードダイヤルを〈A〉に合わせます。

5 カメラとストロボを配置する (p.42)

❗ レシーバーの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でレシーバーが誤動作して、意図せず発光することがあります。

- センドーも発光させるときは、手順5でセンドー発光をONにします (p.16)。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (p.23)。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます (C.Fn-10/p.40)。

複数のレシーバーを使った自動調光撮影



より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、レシーバーの台数を増やして、『レシーバーを1灯使った自動調光撮影』(p.44)と同じ手順で撮影します。

セnderの発光グループが **[ALL]** のときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。



セnderの発光が **[する]** のときは、発光グループAとして発光します。

全自動ワイヤレスの応用撮影

本ワイヤレスシステムでは、セnderで設定した以下の機能がレシーバーに自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。

- FEロック (p.24)
- ハイスピードシンクロ (📷 / p.31)
- マニュアル発光 (p.33、53)
- マルチ発光 (p.35)
- 調光補正 (📷 / p.38)

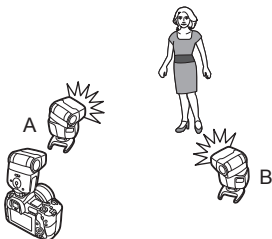
❗ 光通信ワイヤレスストロボ撮影時にマルチ発光を行うときは、発光周波数が1～199Hzになります(250～500Hz不可)。

セnderストロボについて

セnderを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング(レシーバー)のまま、カメラを替えてワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

A:B: 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影

レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影



レシーバーをAとBの2つの発光グループに分け、光量比を調整して撮影することができます。

露出は、発光グループA、Bの光量の合計が標準露出になるように自動制御されます。

センダー側の設定



1 発光グループ、光量比を設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面 (p.28) から項目を選んで設定します。

- (1) 発光グループ
- (2) A:B光量比

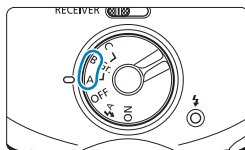


- (1) で、発光グループを **[A:B]** に設定します。



- (2) で **[◀] [▶]** を操作して発光グループA:Bの光量比を設定します。

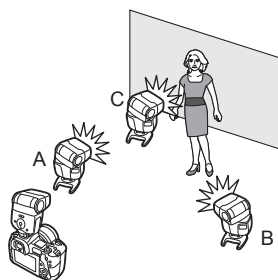
レシーバー側の設定



2 発光グループを設定する

- 各レシーバーのモードダイヤルを、発光させたいグループ(く **A**)またはく **B**)に合わせます。

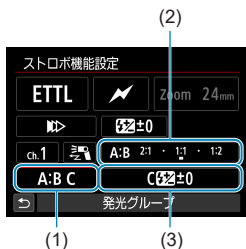
レシーバーを3グループに分けた自動調光撮影



発光グループA、Bに、発光グループCを追加することができます。Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときに有効です。

基本的な設定方法は、『レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影』(p.49)と同じです。

センダー側の設定



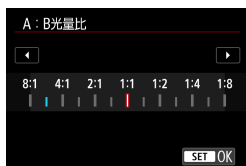
1 発光グループ、光量比、調光補正量を設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面 (p.28) から項目を選んで設定します。

- (1) 発光グループ
- (2) A:B光量比
- (3) 発光グループCの調光補正



- (1) で、発光グループを【A:B C】に設定します。

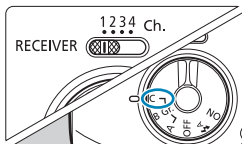


- (2) で【◀】【▶】を操作して発光グループA:Bの光量比を設定します。



- (3) で【◀】【▶】を操作して発光グループCの調光補正量を設定します。

レシーバー側の設定

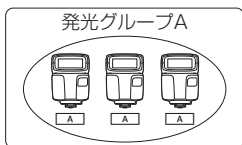


2 発光グループCのレシーバーを設定する

- 光通信チャンネル切り換えスイッチの番号を、他のレシーバーと合わせます。
- モードダイヤルを〈C〉に合わせます。

グループ制御について

より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、レシーバーの台数を増やすことができます。追加するレシーバーを、光量を大きくしたい発光グループ（A, B, Cのいずれか）に設定します。台数に制限はありません。



例えば、3台のレシーバーの発光グループを〈A〉に設定したときは、3台を一台のAグループストロボとして制御します。

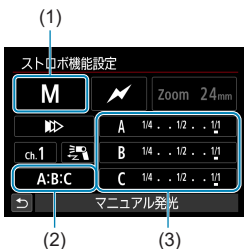
- 発光グループA, B, Cの3グループで発光させるときは、[A:B C]に設定してください。[A:B]の設定では発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

 光量比の8:1～1:1～1:8は、段数換算で3:1～1:1～1:3に相当します。

M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

発光グループごとに発光量を任意に設定した撮影ができます。

センサー側の設定



1 発光モード、発光グループ、発光量を設定する

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面から項目を選んで設定します。

- (1) 発光モード
- (2) 発光グループ
- (3) 発光量

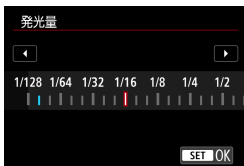
- (1) で発光モードを [マニュアル発光] に設定します。



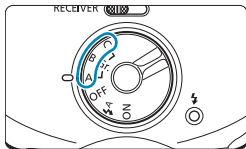
- (2) で発光グループを設定します。
発光グループごとに発光量を調整するときは、[A:B] または [A:B:C] に設定します。



- (3) で発光グループを選び、[◀] [▶] を操作して発光量を設定します。



レシーバー側の設定



2 発光グループを設定する

- レシーバーのモードダイヤルを、設定した発光グループ（〈 **A** 〉、〈 **B** 〉、〈 **C** 〉）に合わせます。



複数のレシーバーを同じ発光量で発光させるときは、[発光グループ] で [ALL] を選びます。

5

資料

温度上昇による発光制限について

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行くと、発光部や電池、電池室付近の温度が高くなることがあります。

繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、発光間隔が段階的に長くなります。その状態でさらに繰り返し発光を行うと、自動的に発光制限が行われます。

発光制限

ストロボ内部の温度が上昇すると、発光間隔が約10秒になります。さらに繰り返し発光を行うと、発光間隔が約45秒になります。

発光制限が行われた場合は、40分以上ストロボを休止してください。

連続発光回数と休止時間

フル発光を連続で30回以上行ったとき、モデリング発光を連続で30回以上行ったときは、40分以上ストロボを休止してください。

注意

連続発光を行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。



- 発光制限中にストロボの電池室ふたの開閉を行わないでください。発光制限が解除されるため大変危険です。
- 高温下でストロボ撮影を行ったときは、上記で示した回数よりも早く発光制限が行われることがあります。
- 発光回数に関する注意については、11ページ（連続発光）、23ページ（モデリング発光）を参照してください。
- 温度上昇などの環境要因により、まれに発光しないことがあります。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてストロボをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

通常撮影

電源が入らない

- 電池が正しい向きに入っているか確認してください (p.12)。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください (p.12)。
- 新しい電池に交換してください。

ストロボが発光しない

- カメラのメニューの【ストロボ制御】または【外部ストロボ制御】画面で、【ストロボの発光】を【する】に設定してください (p.29)。
- 取り付け脚をアクセサリシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.14)。
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点 (p.10) を乾いた布などで拭いてください。
- 連続発光を短時間に繰り返し行い、発光部の温度上昇により発光制限が行われているときは、40分以上ストロボを休止してください (p.56)。

電源が勝手に切れる

- ストロボのオートパワーオフ機能が働いています (p.25)。シャッターボタンを半押ししてください (p.25)。

露出アンダー／オーバーになる

- 主被写体が暗い／明るいときは、調光補正を行ってください (p.38)。
- 画面内に反射率が高いものがあるときは、FEロックを行ってください (p.24)。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッタースピードが高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。被写体に近づくか、ISO感度を上げて撮影してください (p.31)。

写真の下側が暗い

- 被写体から0.7m以上離れて撮影してください。
- レンズにフードが付いているときは取り外してください。

写真の周辺が暗い

- 発光部を操作して、撮影画角よりも広い照射角に設定してください (p.15)。

写真が大きくブレている

- 三脚を使用するか、〈**P**〉プログラムAE、または全自動モードで撮影してください (p.19)。なお、[Avモード時のストロボ同調速度] または [スローシンクロ] で同調速度を設定することもできます (p.29)。

機能が設定できない

- カメラの撮影モードを〈**Fv/P/Tv/Av/M/Bulb(B)**〉に設定してください。なお、撮影モードによっては設定できない機能があります。
- ストロボのモードダイヤルを〈**ON**〉にしてください (p.16)。

光通信ワイヤレスストロボ撮影

レシーバーが発光しない／意図せずフル発光する

- センダーとして使用するときは、カメラのメニュー画面で【ワイヤレス：光通信】に設定してください（p.44）。レシーバーとして使用するときは、チャンネル切り換えスイッチの番号を、センサーの通信チャンネルに合わせてください（p.44）。
- レシーバーがセンサーの通信可能範囲内にあるか、確認してください（p.42）。
- レシーバーのワイヤレス受信部をセンサーに向けてください（p.42）。
- センダーからできるだけ見通しの良い場所にレシーバーを設置してください。
- センダーとレシーバーの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります。
- カメラの内蔵ストロボをセンサーとして使用するときは、カメラの内蔵ストロボを上げて、カメラの【内蔵ストロボ機能設定】の画面で【ワイヤレス機能】の設定を行ってください。

センサーが発光する

- センダー発光を【しない】に設定しても、光通信でレシーバーを制御するため、センサーが発光します（p.44）。

露出オーバーになる

- 発光グループA, B, Cで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください（p.52）。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後5年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

索引

英数字

18%標準反射板.....	34
AF補助光.....	25
Av (絞り優先AE).....	19
Avモード時のストロボ同調速度.....	29
C.Fn.....	40
E-TTL II/E-TTL自動調光.....	18, 19
E-TTL II (調光方式).....	29
FEロック (FEL).....	24
M (マニュアル発光).....	33
M (マニュアル露出).....	19
P (プログラムAE).....	18
TTL自動調光.....	2
Tv (シャッター優先AE).....	19

あ

アクセサリ.....	10
アクセサリシュー.....	14
後幕シンクロ.....	31
安全上のご注意.....	8
一括解除.....	39
色温度情報通信.....	25
オートパワーオフ.....	25, 40
温度上昇.....	56

か

各部名称.....	10
カスタム機能 (C.Fn).....	40
機能設定.....	21
クイック発光.....	16

ケース.....	10
----------	----

さ

先幕シンクロ.....	29
シャッタースピード.....	19
充電.....	16
充電ランプ.....	16
照射角.....	15
初期化.....	39
シンクロ設定.....	29
スタンド.....	10
ストロボ機能設定.....	27
ストロボ制御.....	28
ストロボ同調速度.....	19, 29
ストロボ配置.....	42
ストロボメータードマニュアル.....	34
全自動ストロボ撮影.....	18
センター.....	41

た

調光方式.....	29
調光補正.....	29, 38, 48
調光レベル.....	34
通信可能距離.....	42
電池.....	12
同調速度.....	19, 29

は

ハイスピードシンクロ.....	31, 48
バウンス.....	22

発光回数	11
発光間隔	56
発光グループ	52
発光制限	56
発光部	10
発光モード	18, 29, 33
発光量	33
光通信チャンネル	45
光通信ワイヤレスストロボ撮影	41

ま

マニュアル発光	33, 53
マルチ発光	35
モードダイヤル	16
モデリング発光	23

ら

レシーバー	41
連写優先モード	37

わ

ワイヤレス撮影	41
ワイヤレス作動範囲	42



キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

●製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOSホームページ : canon.jp/eos

EOS・サポートナビ : canon.jp/eos-navi

CANON iMAGE GATEWAY : ptl.imagegateway.net

※ お電話でのお問い合わせの場合

お客様相談センター 050-555-90002

受付時間：9：00～18：00

(1月1日～1月3日は休ませていただきます)

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。

※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

●修理のお問い合わせ・お申し込み

- ・らくらく修理便（引取修理）のお申し込み : canon.jp/repair
- ・修理品持ち込み窓口一覧 :
<http://cweb.canon.jp/e-support/repair/list.html>
- ・電話でのお申し込み : 050-555-99077

らくらく修理便



本書の記載内容は2018年7月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。